

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	病理組織細胞検査学実習 (Practicum of Laboratory Pathology and Cytology)		
ナンバリングコード	S30315	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 応用レベル / 臨床検査学
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修: 臨床検査学コース 選択: 診療放射線学コース、臨床医工学コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S007501	クラス名	-
担当教員名	長濱 純二		
履修上の注意、 履修条件	受講前後に実習内容についての予習・復習を必ず行うこと。 遅刻や私語など、実習の妨げとなる行為をした学生には退出を命じると共に、その日の出席を無効とする場合があります。		
教科書	臨床検査学講座 病理学/病理検査学(医歯薬出版) 染色法のすべて(水口國雄他、医歯薬出版)		
参考文献及び指定図書	細胞診を学ぶ人のために(坂本穆彦、医学書院) 病理検査技術教本(一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会)		
関連科目	解剖学、病理学1、病理学2、病理組織検査学、細胞診検査学、微生物学、生理学、分子生物学		

○基本情報		
授業の目的	・病理組織学的検査法の一連の流れを理解し、病理検査標本を作製法を修得する。 ・一般染色であるhematoxylin-eosin染色、各種の特殊染色法、免疫組織化学染色の原理を理解し、染色技術を修得する。 ・細胞学的検査法の適切な検体処理とPapanicolaou染色を修得する。 ・正常と病変の細胞や組織を鑑別できる能力を養う。	
授業の概要	・病理組織の固定法、脱灰法、パラフィン包埋、薄切、各種染色、鏡検までの、病理組織学的検査の基本的技術を修得する。また、病的な組織標本についても鏡検・スケッチを行い、日常で遭遇する可能性の高い疾患の組織像について理解する。 ・細胞診検体での正しい固定・塗抹技術を学び、婦人科・呼吸器・体腔液などの鏡検を行い、それぞれの症例、疾患に特徴的な細胞像を理解する。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「実験・実習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目		
実務経験のある教員による授業科目	長濱純二: 実務経験30年以上	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。		10点	
【ディプロマ・ポリシー2】	幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	70点	10点	
【ディプロマ・ポリシー3】	医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。		10点	
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
筆記試験、実習への取り組み方、レポート提出状況およびレポートの記載内容で評価します。 課題・レポート等のフィードバックは授業内容等で適宜行います。	
＜レポート評価のポイント＞ 提出されたレポートが授業に基づいており、内容が正確であるかどうか。 レポートの図や文章が適切で理解しやすいか。	

○その他	
臨床検査学コースの学生は必ず履修すること。	
スケッチブック(A4)、色鉛筆が必要。	
授業プログラムは、シラバスに沿って実施しますが、実習の進捗状況や医療技術等の状況を考慮しながら、再調整することがあります。	

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名 担当教員	病理組織細胞検査学実習 (Practicum of Laboratory Pathology) 長濱 純二	授業コード	S007501
学修内容				
1. オリエンテーション、病理組織細胞検査の意義、各種固定法、切り出し、脱脂、脱水、脱灰について学修する。				
予習 病理組織細胞検査の意義、各種固定法、切り出し、脱脂、脱水、脱灰について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
2. 病理組織標本の作製法2(自動包埋装置、パラフィン包埋ブロックの作製)について学修する。				
予習 パラフィン包埋ブロックの作製について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
3. 薄切切片の作り方1(ミクロトームによる標本作製)について学修する。				
予習 薄切切片の作り方について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
4. 薄切切片の作り方2(ミクロトームによる標本作製)について学修する。				
予習 薄切切片の作り方について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
5. 染色理論と各種染色技術(HE染色、多糖類の染色)について学修しスケッチを行う。				
予習 HE染色、多糖類の染色について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
6. 染色理論と各種染色技術(結合組織の染色:Masson trichrome染色、Azan染色、EVG染色)について学修しスケッチを行う。				
予習 結合組織の染色について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
7. 染色理論と各種染色技術(渡辺の鍍銀染色、PAM染色、Grimelius染色)について学修しスケッチを行う。				
予習 銀を用いる染色について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
8. 免疫組織化学染色(酵素抗体法)の理論と技術について学修しスケッチを行う。				
予習 免疫組織化学染色について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				

○授業計画	科 目 名 担当教員	病理組織細胞検査学実習 (Practicum of Laboratory Pathology) 長濱 純二	授業コード	S007501
学修内容				
9. 心臓、呼吸器系の異常病理組織標本を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 心臓、呼吸器系の正常組織と腫瘍の形態学的特徴について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
10. 呼吸器、消化器系の異常病理組織標本を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 呼吸器、消化器系の正常組織と腫瘍の形態学的特徴について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
11. 消化器系、泌尿・生殖器系の異常病理組織標本を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 消化器系、泌尿・生殖器系の正常組織と腫瘍の形態学的特徴について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
12. 泌尿・生殖器系の異常病理組織標本を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 泌尿・生殖器系の正常組織と腫瘍の形態学的特徴について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
13. 細胞学的検査法(細胞診標本の作製:検体処理、固定、Papanicolaou染色)について学修する。				
予習 細胞学的検査法について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
14. 細胞診標本(婦人科症例)を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 婦人科細胞診の正常と病変について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
15. 細胞診標本(呼吸器・体腔液)を顕微鏡観察しスケッチを行う。				
予習 呼吸器・体腔液細胞診の正常と病変について予習する。				
復習 実習内容をレポートにまとめる。				
16. 定期試験				
予習				
復習				